



J.Y.P.S.
Japan Youth Platform for Sustainability



TICAD7ユースサミット報告書

1. 開催概要

| | |
|-------------|---|
| 企画名 | TICAD7ユースサミット —アフリカと日本のユースで共に考える、私たちの未来— |
| 日時 | 2019年8月12日(月) |
| 場所 | JICA地球ひろば |
| 主催団体 | 持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム (Japan Youth Platform for Sustainability:JYPS) |
| 共催団体 | SDGsケニアフォーラム |
| 後援団体 | JICA地球ひろば、市民ネットワークforTICAD |
| 採択事業 | TICAD7パートナー事業 |
| 助成 | 地球環境基金 |
| SNS | Facebookイベントページ： https://www.facebook.com/events/697044230735705/ |
| 参加者数 | 約80人 |
| 参加団体数(個人含む) | 24団体 |

当イベントは地球環境基金の助成により運営されました。



2. 開催報告

TICAD7ユースサミットは、第7回アフリカ開発会議(TICAD7)に向けて、将来を担う若者が多国間協議の場であるTICADの重要性を認識し、主体性を持ってTICAD7のアジェンダ策定に参画するために、アフリカへの関心を高め、ネットワークを構築し、今後のアクションを促進することを目的に開催されました。また、若者の声をTICADの意思決定の場に届けるために、サミットでの議論をもとにTICAD7ユース政策提言書を作成しました。

本ユースサミットは以下の4点を主な目的に据えて開催しました。

- ①TICAD7という機会を通して、日本とアフリカユースに以下を伝える
 - (1) アフリカに関連するグローバル 이슈と、自分たちの関わりがあること
 - (2) そのような問題を自分事としてできることを実践していくこと（ローカライズとアクション）
- ②日本とアフリカの若者の声を集約し、日本とアフリカの関係省庁（各国政府組織）・国際機関に伝え、若者の声を反映させる
- ③日本とアフリカの若者同士、関係機関とのパートナーシップを促進し、プロジェクトやアクションを実施する素地をつくる
- ④若者とNGOや社会課題に取り組む企業をつなぎ、ポジティブなインパクトを生成する

<開会式・全体会>



最初の開会式・全体会では、アフリカで活動する日本とアフリカのユースが登壇し、それぞれの活動現場で起きている問題や、どのような若者のアクションが行われているかを共有しました。またアフリカ開発の専門家より多様なアフリカの姿やTICADのいう会議の性質など、今後の分科会で議論する土台となる共通認識を共有していただきました。そしてそれぞれの若者の活動や認識を踏まえ、アフリカの持続可能な開発のための若者のエンパワーメントと、若者との協働を加速させるにはなにが必要なのか、登壇者と参加者でディスカッションを行いました。

<分科会>



分科会では、若者が実際にアフリカで活動している団体とともに、アフリカ開発に関わるテーマを深堀るセッションを開催しました。分科会はTICAD7の3本柱に沿って設定され、①「人間の安全保障」からは教育、保健 ②「経済開発」からは雇用、開発とビジネス ③「平和と安定」からは難民問題、西サハラをテーマに取り上げ、合計6つの分科会をユースの活動とリンクさせて開催しました。各分科会登壇者は、分科会テーマを掘り下げ、普段の活動と結びつけるだけでなく、分科会の参加者とも相互に交流し、より深い

議論を提供しました。また参加者は若者の視点から問題解決に向けて何ができるかを考えました。雇用の分科会では、ABEイニシアティブ生であるナイジェリア人のAyodeji Peter Idowu氏にご登壇いただき、アフリカの若者のリアルな雇用問題、そしてどのような就職活動がされているのかを議論しました。日本で勉強しているアフリカ人ユースも参加しており、日本とアフリカのユースで議論しあう場となりました。

<マッチング・ネットワーキング・映像上映会>



各分科会で参加者のそれぞれの興味関心に基づいたテーマを深掘りした後は、次なるアクションにつなげる企画として、アフリカで活動をしている団体・企業とのマッチング、参加者同士のネットワーキング、そしてジャーナリストの岩崎有一さんによる映像「アフリカ二十七景～大陸各地の風景・文化・人々の表情」の上映会が行われました。マッチングには13の企業・団体が参加し、担当者の方と参加者は1対1で密に相談することで次なるアクションへとつながっていきました。

<閉会式・フォトアクション>

閉会式では、まず各分科会のモデレーターから、各分科会のまとめを全体に共有しました。グラフィックレコーディングを用いながら、視覚的にもわかりやすく、議論のポイントについて参加者に伝えました。次に、JYPS事務局の山口より、ユースサミットの成果となるユース政策提言書の概要を紹介しました。そして最後に、TICAD7フォトアクションを行いました。「2030年または2063年にあなたはどんな世界で生きたいのか」「それをどう実現するのか」という問いに対する一人ひとりの答えを専用の用紙に書き、その様子を写真撮影し、SNSなどを通して世界に発信、啓発を行いました。



3. 成果

(1) 若者のTICADや政策提言に関する理解の深化と意見の集約

ユースサミットの全体会・分科会を通して、アフリカの課題について若者自らが考え、意見を交わし合う機会をつくりました。アフリカ開発に関わる専門家や実際にアフリカで活動するユースからの質の高いインプットにより、若者間でアフリカ開発に対する理解を深めることができ、さらに現在のアフリカの課題に対してどのような政策が必要か、そして若者には何ができるのかについて参加者同士で考えることができました。

また、ここで出た意見を集約し、ユースサミット主催のJYPSが主導で「TICAD7ユース政策提言書」を作成しました。こちらは、現在のTICAD7で議論されたアフリカに関するユースを取り巻く様々な課題に対してユース自身の意見を集め、政策の意思決定プロセスにその意見を届けるための文書です。提言書の作成過程は、まずJYPS事務局で提言案を作成し、分科会登壇者やサミット当日の参加者から幅広く意見を吸い上げ、サミット開催後にもう一度JYPS事務局でTICAD7本会合まで修正を重ねました。Facebookのグループなどを通して、日本だけでなくアフリカのユース、アフリカで活動する日本人などからも多くの意見が寄せられ、幅広い観点をカバーした提言書を完成することができました。

完成したユース政策提言書は、8月27日にJYPS主催のTICAD7公式サイドイベント「若者の参画とパートナーシップ—SDGsとアジェンダ2063を達成するために—」にて提出されたほか、TICAD7の各共催者に手交されました（詳しくは6ページ参照）。

(2) 若者主体のアクションとパートナーシップの促進

ユースサミットでは、一日で約80名の日本とアフリカの若者と、24のアフリカに関わる団体が一堂に会しました。「アフリカ」をキーワードに、様々なバックグラウンドを持つ人々が集まり、多様な「つながり」を生み出す機会とすることができました。高校生から若手社会人まで多くの若者が集まり、アフリカに関する知見や経験を共有し合う中で、若者同士のネットワークを広げ、より強くすることができました。

また、実際にアフリカで活動する団体に若者が参加できる機会を提供してもらうことで、若者が全体会や分科会を通してアフリカについて考えたことを、現実の行動に移せる仕掛けづくりを行いました。こうしたマッチングやネットワーキングにより、遠いアフリカに対しても若者のアクションを生み出す素地をつくることができました。また、フォトアクションでは理想の未来とそのための行動を紙に書き写真に撮ることで、参加者1人1人が自分のアクションを考えるきっかけをつくることができました。今後はユースサミットでのつながりを生かし、TICAD8に向けてさらなる若者の活動が活発化するよう、よりインパクトのある協働を生み出していきたいと思いません。



J.Y.P.S.
Japan Youth Platform for Sustainability



第7回アフリカ開発会議（TICAD7）報告書

1. 会議概要

| | |
|--------|---|
| 日程 | 2019年8月28日（火）～8月30日（木） |
| 場所 | パシフィコ横浜 |
| 助成 | 地球環境基金 |
| SNS | Facebookページ： https://www.facebook.com/pg/JYPS2030/events/?ref=page_internal |
| 会議用ページ | 外務省公式ページ： https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/ticad/ticad7/index.html |

2. 派遣団員名簿

| 名前 | 役職 |
|-------|--------------------------|
| 山口 和美 | 事務局員／TICAD7ユースサミット統括／参画部 |
| 長谷 勇輝 | TICAD7ユースサミット実行委員 |
| 犬飼 萌乃 | TICAD7ユースサミット実行委員 |
| 池内 彩乃 | TICAD7ユースサミット実行委員 |
| 成田 葵 | TICAD7ユースサミット実行委員 |
| 亀山 郁弥 | TICAD7ユースサミット実行委員 |
| 河合 将貴 | TICAD7ユースサミット実行委員 |

当会議は地球環境基金の助成により派遣されました。



3. TICAD7とは

TICADとは、日本政府(外務省)が主導し、国連、国連開発計画(UNDP)、世界銀行及びアフリカ連合委員会(AUC)が共同開催をしているアフリカ開発をテーマとする国際会議です。1993年に東京にて初開催され、今年で第7回目を迎えます。1993年より4年に一回開催され、2013年のTICAD Vからは3年に一回、日本とアフリカ交互に開催されています。

TICAD7では「アフリカに躍進を！ひと、技術、イノベーションで。」のテーマの下、6つの全体会合と5つのテーマ別会合が行われました。特にアフリカの今後の開発に向けて、以下の3つの点をPillarとし、議論が交わされました。

- 1.イノベーションと民間セクターの関与を通じた経済構造転換の促進及びビジネス環境の改善
- 2.持続可能かつ強靱な社会の深化
- 3.平和と安定の強化

TICAD7では42名の首脳級を含むアフリカ53か国、52か国の開発パートナー諸国、108の国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターやNGO等市民社会の代表等、10,000名以上が参加しました。安倍総理大臣がエルシーシ・エジプト大統領（AU議長）と共に共同議長を務め、麻生副総理が日本側議長代理を務めました。日本政府からは河野外務大臣のほか、関係閣僚、政府機関の長などが出席しました。

最終日には成果文書として、横浜宣言2019が採択され、横浜行動計画2019が付属文書として発表されました。

また、TICAD7の期間中は、約140件のサイドイベントや約100件の展示が開催され、政府機関や国際機関、企業や市民社会など多様な主体がTICADに参加しました。

4. TICAD7本会合におけるJYPSの活動

(1) ユース政策提言書の手交

8月12日に開催された「TICAD7ユースサミット」にて作成されたユース政策提言書を、TICAD7の主催者・共催者に手交しました。手交した方々は次の通りです。

- ・アフリカ連合経済・社会・文化評議会（AU ECOSOCC）副議長 Khalid Boudali氏
- ・世界銀行 副総裁（人間開発担当）Annette Dixon氏
- ・世界銀行 駐日特別代表 宮崎成人氏
- ・国連開発計画（UNDP）アフリカ局長 Ahunna Eziakonwa氏
- ・国連開発計画（UNDP）駐日代表 近藤哲生氏





そのほか、TICAD各国の大統領やTICAD関係者など、多くの人にユース政策提言書をお渡しし、TICADやアフリカ開発に関するユースの意見を伝えることができました。

(2) 公式サイドイベントの開催

JYPSでは2つの公式サイドイベントを開催しました。1つは、JYPSが主催で開催した8月27日に実施した「若者の参画とパートナーシップ—SDGsとアジェンダ2063を達成するために—」です。政府や様々なアクターと若者とのパートナーシップをテーマに、アフリカ諸国の事例発表を通じて、ユースの参画のあり方や、意思決定の場におけるユースの声の重要性について、参加者とともに考えました。このサイドイベントでは若者自らが企画運営を担ったほか、モデレーター、パネリスト等も若者が行い、政府関係者の方々をお呼びして実施しました。

もう一つは、国際家族計画連盟（IPPF）とJOICFPと共催で行った「若者の力 ～SRHRから始めるジェンダー平等～」です。日本とアフリカの若者の活動を紹介し、包括的性教育など、若者を対象にした事業が、健康維持・推進やエンパワーメント、教育の継続等に結びつくことを話し合いました。（詳しくは11ページ「TICAD7公式サイドイベント報告書」を参照）

(3) 市民社会forTICADとの連携・協働



JYPSは市民ネットワークforTICAD（Afri-Can）の一員として本会合のほぼすべてのセッションに参加し、今回作成したユース政策提言書をもとに、市民社会としての提言にユースの声をインプットしました。

市民ネットワーク for TICAD(Afri-Can)とは、TICADに関する政策提言や国内イベントを開催してTICADを広める活動をするNGOネットワークです。TICAD V への市民社会の取り組みを踏まえ、日本とアフリカの市民の声を届けようという趣旨で2014年3月に設立されました。

アフリカ市民協議会(Civic Commission of Africa = CCfA)は、2008年のTICAD IVとG8サミットに向けて、アフリカ市民社会の声を効果的に、日本と国際社会に持ち込むために、2007年に構築されたアフリカの市民社会のネットワークです。Afri-CanとCCfAはパートナーシップを築き、TICADに向けて市民社会からの働きかけを積極的に行っています。今回Afri-CanとCCfAのメンバーは市民社会としてTICADの本会合に参加しました。

TICAD7開催前の26日に行われた市民社会事前会合、またTICAD7期間中の毎朝のブリーフィングでは、各セッションの市民社会としての意見の取りまとめが行われました。JYPSもこうした市民社会の動きに参加しながら、日本とアフリカの市民社会の方々と連携を深めました。

(4) メインセッション・テーマ別会合への参加



TICAD7では6つの全体会合、5つのテーマ別会合が行われましたが、JYPSはすべての全体会合と3つのテーマ別会合のパスを獲得し、会合に参加しました。セッション前は市民社会と協働で加盟国への発言内容にユース視点をインプットしたり、セッション中はノートテイクを行うとともに会議の様子をSNSで発信しました。科学技術イノベーション (STI)をテーマにした分科会では、アフリカの市民社会として来日したカメルーンのユースと協働し、ICT教育やユースに関わる政策について本会合で発言する機会を得ることができました。

(5) ネットワーキング



TICAD7に来ている日本とアフリカ・世界各地の政府関係者、国際機関、企業、市民社会など、幅広い参加者と広範囲なネットワーキングを行いました。本会合に参加しアドボカシーを行う若者はほとんどおらず、若者のプラットフォームとしてのJYPSを認知してもらうと同時に、プラットフォームとしての活動やTICADと若者の関わりについて、様々な方と意見交換を行いました。また、様々なハイレベルの方々との交流の機会もいただきました。8月28日に行われた総理・横浜市長歓迎レセプションでは、世界銀行駐日特別代表にユース政策提言書をお渡ししたほか、安倍昭恵夫人に、JYPSの活動や若者の声の重要性についてお話しさせていただき、夫人からは応援の言葉

をいただきました。



阿部 俊子副大臣主催の昼食会では、市民社会の代表が阿部副大臣にスピーチを行い、政府と市民社会との連携についてつながりを深めました。JYPSからは山口が参加し、若者が他セクターと連携するうえで直面する課題や、若者と政府の共同プロジェクトの推進、若者の社会集団としての認知度向上、また政策意思決定プロセスへの若者の参画機会の拡大など、政府への要望を伝えました。



(6) SNSでの日本の若者への広報活動

本会合参加者は、セッションやサイドイベントの様子や、JYPSの活動をSNSで発信しました。広報活動の目的は、会議に来れなかった人にも会議の様子を伝え若者の関心を高めることとともに、TICADがどんな会議で、各国政府がどの様に責任を果たしているかについて、若者の視点から考えていくためでもあります。Twitterを通じたリアルタイムの発信を中心に、本会合期間中の様子をまとめたブログの更新を行いました。

(7) テーマ別報告書作成（作成中）

TICAD7の全体会合、テーマ別会合で扱われた内容をまとめた報告書を作成中です。内容は、テーマ別レビューの内容、横浜宣言へのユース視点の評価に加え、広報戦略、活動成果、JYPSがこれまで行ってきたTICADに対するアドボカシー、アウトリーチ、ネットワーク、キャンペーン活動を総括する予定です。完成した報告書は、JYPSのSNSや加盟団体用メーリングリストを通じて発信します。

5. 成果

(1) TICADの意思決定の場に対するユースの参画機会の拡大

TICADの会議の構成には、若者をはじめとするステークホルダーが公式的に参画できる枠組みはなく、「市民社会として」参加するに限られます。JYPSは市民社会の中の若者として会議に参加するなか、TICAD主催者・共催者にユース政策提言書の手交する機会を自ら行動し開拓することができました。TICADの主催者・共催者のハイレベル層にユースの提言書を渡すことができたことは、TICADの今後にとって非常に大きな出来事であると考えます。それはつまり、若者が望むフリカの開発への意見、それだけでなく、活動している若者がいることや若者が声を上げていることを知ってもらうことができ、ユースの参画機会を拡大することができたと考えられます。

また、本会合に参加し市民社会と協働しながらユースの声をインプットしたことは、これまでと比べてTICADへの若者の参画を大きく進めることができたと言えると考えます。今後は今回のアドボカシーの成果を活かし、TICAD8に向けたフォローアップやモニタリングを行うとともに、さらなるTICADにおけるユースの参画機会拡大に向けて、引き続き政府関係者との関係性を深め、連携や協働の機会を作って行きたいと思えます。

(2) 多様な協働・パートナーシップの構築・ネットワークの拡大

今回のTICADで、国内の市民社会ネットワークをはじめ、CCfAといったアフリカの市民社会、各国の政府関係者や国連の方々、NPO/NGOなど広範囲にわたるネットワークを構築することができました。特に、若者主体の団体が、TICADという国際会議において2つの公式的なサイドイベントを開催したことは、若者の重要性やニーズを訴える上で非常に大きな成果であり、サイドイベント開催にあたって国際的に活動する市民団体や国際機関と連携できたことは、新しいパートナーシップを構築につながりました。

特に政府機関とのつながりが構築できたことは、今後TICAD8に向けた若者の制度的参画をさらに進めるうえで非常に重要です。加えて、アフリカの市民社会、中でもアフリカのユースとのネットワーク構築は今度のTICAD8に向けた活動において非常に重要な繋がりとなります。アフリカの持続可能な開発や平和のための政策決定における、アフリカと日本のユースの参画をより促進するために、アフリカのユースとさらに連携を強めながら、政府機関に具体的でより力のある働きかけを行って行きたいと思えます。



J.Y.P.S.
Japan Youth Platform for Sustainability



TICAD7公式サイドイベント報告書

1. 開催概要

| | |
|------|--|
| 企画名 | 若者の参画とパートナーシップ —SDGsとアジェンダ2063を達成するために— |
| 日時 | 2019年8月27日(火) |
| 場所 | パシフィコ横浜アネックスホール F204 |
| 主催者 | 持続可能な社会に向けたジャパンユースプラットフォーム (JYPS) |
| 共催者 | SDGs ケニアフォーラム、市民ネットワークforTICAD |
| 助成 | 地球環境基金 |
| SNS | Facebookイベントページ https://www.facebook.com/events/374195759937273/ |
| 参加者数 | 約40人 |
| 登壇者 | 9名 |

| | |
|--------|---|
| 企画名 | 若者の力 ~SRHRから始めるジェンダー平等~ |
| 日時 | 2019年8月29日(木) |
| 場所 | パシフィコ横浜アネックスホール F203 |
| 主催者 | 国際家族計画連盟(IPPF)、公益財団法人ジョイセフ(JOICFP)、 持続可能な社会に向けたユースプラットフォーム(JYPS) |
| 助成 | 地球環境基金 |
| ウェブサイト | https://www.joicfp.or.jp/jpn/2019/08/13/43059/ |
| 参加者数 | 約100人 |
| 登壇者 | 8名 |

当イベントは地球環境基金の助成により運営されました。



2. 若者の参画とパートナーシップ—SDGsとアジェンダ2063を達成するために—

本サイドイベントは、若者の参画メカニズムの現状と政府と若者とのパートナーシップをテーマに、アフリカと日本でアドボカシー活動に携わるユース4人や、政府機関関係者を招き開催しました。ユースからは彼らの活動やアドボカシーの事例を共有し、若者の意見とは何か、それを政策決定に生かすにはどうしたらいいのかについて、アフリカ連合(AU)や国連ボランティア計画(UNV)といった政府関係者とともに議論しました。



<開会挨拶>

開会は、共催者であるSDGsケニアフォーラムの Florence Syevnu氏の挨拶から始まりました。

Ms. Syevnuは若者の参画が持続可能な社会、包摂的な社会開発に重要であると述べ、若者は自分たちが生きていきたいと思える社会を作るために、社会で起きていることをモニタリングすることが大切な役割であり、この役割を啓発していくことを強調しました。



<祝辞>

アフリカ連合 経済・社会・文化評議会(AU ECOSOCC)副議長のKhalid Boudali氏によるスピーチでは、近い将来4人に3人が平均20歳になるアフリカにおいて、平和と安全保障や、キャパシティビルディング、メンターシップの重要性を強調されました。若者たちの繋がり、若者による未来へのポジティブな行動を促進し、知識を培い政治でも戦えるようにすることがこれからのアフリカに必要なだと主張されました。さらに、国際移住などに関して、グローバルな対話と政策策定において若者こそが責任を持つべきであると参加者に呼びかけました。



<ユース政策提言書の手交>

TICAD7ユースサミットや、Facebook、メーリングリストなどのネットワークを活用し、ユースの意見を集約し作成したTICAD7ユース政策提言書を、JYPS山口からAU ECOSOCC副議長のBoudali氏に手交し、TICAD7における政策決定の場にユースの声を盛り込むよう要望いたしました。Boudali氏より、この政策提言書をAU議長に提出するだけでなく、アフリカでの次なる活動をユースともに行うことや、アフリカにおける政策立案者にユースが会う機会を設けるとのことが述べられました。



<基調講演>

国連ボランティア計画 事務局次長のToily Kurbanov氏による基調講演では、若者によるボランティアの多大な影響力に言及され、若者によるオンラインの活用など多様な観点から、新たな視点からの問題を発見・解決を可能にしており、SDGsの達成に貢献していること、また国連ではボランティアがSDGs達成の鍵と認識されていることが述べられました。そして、ボランティアは手段であり、人と人がつながり、世界をよくする考えが広がるようUNVはすべての努力を支援すると強く主張されました。

<ユースパネリストによるプレゼンテーション>



アフリカと日本でアドボカシー活動をするユースが、それぞれの活動や問題意識についてプレゼンテーションを行いました。アフリカからは栄養、STI、保健、に関わる若者が登壇し、日本からはJYPSがTICADにおけるユースの文脈や参画のあるべき姿などが共有されました。ユースの登壇者は次の通りです。

- ・ Webster Makombe氏 Scaling Up Nutrition (SUN) グローバル・ユース・リーダー
- ・ Gwei Micheal Wawa氏 ブエア大学修士、テクノロジー専攻
- ・ Fitsum Lakew氏 WACI Health, コーディネーター
- ・ 大久保勝仁 JYPS参画部統括、SDGs市民社会ネットワーク理事

また、プレゼンでは以下のような発言がありました。

- ・ 飢餓や食糧問題に対して、栄養不良の改善を若者が積極的に取り組むべきだ。
- ・ ICTの開発によりプラットフォームを作ることによって教育が促進し、また、環境問題改善、政治の腐敗根絶など様々な可能性が広げられる。
- ・ 感染症根絶のために若者の力が必要であり、よりよい未来のためにアドボカシーと向き合うべきだ。
- ・ 若者を経済問題のコアにして包摂するだけでなく、若者の実際の参画できるプラットフォームが大事になる。



<パネルディスカッション>

パネルディスカッションでは、JYPSの岡部エミリーがモデレーターを務め、パネリストとともに日本とアフリカのユースによってどのようにアドボカシーを進めることができるのか議論されました。若者のキャパシティに限界があることもあるが、それを日本とアフリカの交流や協力によって伸ばしていけること、アフリカ連合としても、若者に注目し、アイデアを使って輝けるような社会になるために投資を惜しまない、日本の若者の観点とアフリカの若者の観点を巻き込み開発を進めて行くべき、などが話されました。

<成果>

TICAD7において若者に関するサイドイベントはいくつか開催されましたが、若者が主体となり運営し、さらに若者のアドボカシーや参画について議論したサイドイベントは、JYPSの本サイドイベントただ一つでした。TICAD7の本会合が始まる前日に、アフリカと日本のユースが政府関係者とともに議論し、TICAD7における「若者なくして若者の政策なし」を若者自らが発信し、さらにはユース政策提言書をアフリカ連合に手交したことで、TICAD7において若者の参画の重要性を大きくアピールことができました。

また、今回のサイドイベントは日本とアフリカの若者によって企画・運営されました。本イベントで若者の多国間協力の可能性の大きさを示しただけでなく、参加した若者自身は、日本とアフリカのネットワークの構築や、国際会議という場でのサイドイベント運営、ユース政策提言書の作成における多様な分野への知識拡大など、様々な経験を得ることでユースの持つキャパシティをさらに増大することができました。

3. 若者の力 ～SRHRから始めるジェンダー平等～

本サイドイベントでは、ジェンダー平等とセクシュアル・リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (SRHR) 推進に向けたアフリカと日本の活動が紹介され、トーゴとレソト、そして日本のNGOでジェンダーやSRHRの課題に当事者として真正面から向き合い活動に取り組む若者が登壇し、ジェンダー平等の達成に不可欠な若者の健康、教育の継続、経済的な安定の重要性を議論しました。

<司会進行>



このサイドイベントの司会はJYPSの山口和美が務めました。



<開会挨拶>

ジョイセフ事務局長の勝部まゆみ氏による開会挨拶では、ジョイセフがSRHRを推進する団体として女性の命と権利を守ることに邁進しており、その中でジェンダーの平等と女性・少女の権利が切り離せないことを痛感していることを述べられました。セクハラやマタハラといった女性に対する差別は深刻な社会問題であることを参加者に再認識させ、この問題への解決の合言葉はLove/ Act/ Decide yourselfであると主張されました。



<祝辞>

外務省の市野紗登美氏による祝辞では、若者の参加のもとで開催されるサイドイベントが数少ないことに言及され、本サイドイベントの重要性について強調されました。アフリカの躍進の根本は人であり、1人1人のエンパワーメントが世界の変革につながることで、そして若者が健康・自分の未来を切り開く力をつけて、若者としての権利を行使することが鍵となると述べられました。

<IPPFの取り組み>



国際家族計画連盟(IPPF)アフリカ連合所長のSam Ntelamo氏は、冒頭に"若者に力を与え若者の権利を保護するにはどうすればよいか?"と会場に問いかけられました。若者が彼ら自身の課題を克服するためにアフリカが必要なことは教育、雇用、健康と福祉の3つであると主張し、ソフトスキルとハードスキルの両方に関して、教育の平等と若者のエンパワメントを確保すること、若者が経済的不安定から脱出するために自らビジネスを開始できるような起業家教育を強化すること、若者でも特に若い女性のHIV/AIDS、望まない妊娠や安全でない中絶を根絶することにIPPFが取り組んでいると述べられました。

<アフリカ・日本のユースの活動紹介>



西アフリカの国トーゴのEméfa Chéríta Ankou氏は、10代の若い女性の出生率、また妊産婦死亡率の高さや性感染症になる若者の割合が高いことなどに言及し、その背景には学校の中退、セクシャリティに関する情報やサービス、教育の欠如、また、文化的にセックスに関する発言が極めてタブーであることなどがあり、YAMとATBEFがSRHRを通してそれらの問題解決に取り組んでいることを紹介しました。レソトの助産師であるMamello Makhele氏からは、具体的に性教育用のラジオやテレビ番組をモバイルアプリを通じた情報提供、包括的性教育を国内のより多くの学校に展開、また農村部への青少年センター設置などが述べられました。

日本のユースアクティビストとしては、ちゃぶ台返し女子アクション学生メンバーの戸谷知尋氏が登壇し、日本の性暴力問題について被害者が声をあげても批判されてしまうセカンドレイプがあるという深刻な現状を提示しました。そのような中で、ちゃぶ台返し女子アクションは女性をはじめとする、あらゆる性の人々が自分らしく生き、自由に想いを口にすることができる社会を目指して、当事者同士が語り合える現場を作っており、ワークショップなどの実施やハンドブックの配布などによる性的同意の啓発活動などが紹介されました。



<パネルディスカッション>

IPPFの高澤裕子氏のモデレートのもと、性に関する発言にオープンな環境が整っていないことへの取り組みや、女性の権利について活動をしている政府や市民社会やコミュニティとどう関わっているのか、そもそもなぜアクティビスト・エドゥケーターとして活動しているのか、などが議論されました。彼女たちに共通していたのは、アプリやLINEスタンプなどテクノロジーを活用し多様なアプローチにチャレンジしていること、学校、保健省、政府、教会、警察など周りの環境を巻き込んで活動していたことでした。

<Q&A>

会場の参加者からのパネリストへの質問では、モロッコからの参加者から自国での経験などより、ユースが活動していく中でどのように親世代も巻き込んでいくのかなどが質問がありました。SRHRの普及は若者だけにではなく親世代にもSRHRの教育をすることで多方面から若者世代にアプローチすることができるようになる、そして、他のアクティビストのとの連携や政府のプロジェクトとの連携、情報伝達手段の活用など若者にも大人にもアプローチする方法が議論されました。

<成果>



ジェンダー平等やSRHRの推進は、若者が多くを占めるアフリカにおいて、若者のエンパワーメントなしには成り立ちません。アフリカだけでなく日本でもジェンダーやSRHRの課題は山積みであり、今回のサイドイベントは実際に問題解決に取り組むアフリカと日本の若者が登壇したことで、両国の若者のジェンダー平等すべてにかかわるSRHRの現状が明らかとなりました。

また、様々な垣根を超えて、新たなアプローチとともに、多方面を巻き込みながら活動する若者の行動力と柔軟性が各パネリストから提示され、これからの若者の参画の可能性があらためて認識されました。

Appendix

JYPS 運営メンバー名簿

| 名前 | 役職 |
|------------|--------------------------------|
| 岡部 エミリー 直美 | 事務局長 |
| 大久保 勝仁 | 前理事／参画部統括 |
| 山口 和美 | 事務局員／TICAD7ユースサミット統括／参画部／本会議参加 |
| 佐井 以諾 | 事務局員／政策部 |
| 加戸 菜々恵 | 事務局員／ニューヨーク支部統括 |
| 新 武志 | 事務局員／ニューヨーク支部パブリシティ |
| 原田 直美 | 事務局員／アドミン部スタッフ |
| 宮下 清美 | 事務局員 |
| 山下 英彦 | 事務局員 |
| 小池 宏隆 | 顧問 |

TICAD7ユースサミット実行委員会 メンバー一覧

| 名前 | 役職 |
|--------|-------------------------|
| 長谷 勇輝 | TICAD7ユースサミット実行委員／本会議参加 |
| 犬飼 萌乃 | TICAD7ユースサミット実行委員／本会議参加 |
| 池内 彩乃 | TICAD7ユースサミット実行委員／本会議参加 |
| 成田 葵 | TICAD7ユースサミット実行委員／本会議参加 |
| 亀山 郁弥 | TICAD7ユースサミット実行委員／本会議参加 |
| 河合 将貴 | TICAD7ユースサミット実行委員／本会議参加 |
| 清水 柚奈 | TICAD7ユースサミット実行委員 |
| 山口 航 | TICAD7ユースサミット実行委員 |
| 後藤 正太郎 | TICAD7ユースサミット実行委員 |
| 酒井 春奈 | TICAD7ユースサミット実行委員 |

TICAD7ユースサミット 登壇者

| プログラム | 名前 | 所属 |
|--|--------------------------------|--|
| 開会式・全体会 「若者の声と行動が 変える未来」 | Catherine Nyambura氏 (ビデオ出演) | SDGsケニアフォーラム |
| | 田口 愛氏 (ビデオ出演) | カカオ絆プロジェクト |
| | 花田 樹氏 | エチオピアUNDP UNV派遣経験者 |
| | 荘所 真理氏 (ビデオ出演) | 世界銀行職員 |
| | 稲場雅紀氏 | NPO法人アフリカ日本評議会 国際保健 部門ディレクター/市民ネットワーク forTICAD世話人 |
| | 大久保勝仁 | JYPS参画部統括/SDGs市民社会ネット ワーク理事 |
| 分科会1-1 「持続的成長のため の教育とは何か」 | 佐久間 典子氏 | NPO法人アフリカ地域開発市民の会 (CanDo)事務局長 |
| | 中島 玖氏 | 公益社団法人プラン・インターナショナル・ ジャパン プログラム部 |
| 分科会1-2 「若者のリアルな就 職状況から考える雇 用問題」 | 福西 隆弘氏 | 日本貿易振興機構アジア経済研究所 地域 研究センター・アフリカ研究グループ長 |
| | Ayodeji Peter Idowu氏 | ABEイニシアティブ学生(ナイジェリア) |
| 分科会1-3 「難民問題の恒久的 解決策を考える」 | 広谷 樹里氏 | (特活) 難民を助ける会 |
| | 稲場 雅紀氏 | (特活) アフリカ日本評議会 国際保健部 門ディレクター/市民ネットワーク forTICAD世話人 |
| 分科会2-1 「コミュニティを巻 き込んだ主体的な健 康促進」 | 山口 牧子氏 | NPO法人AfriMedico 理事 |
| | 風間 春樹氏 | NPO法人HANDS プログラム・オフィ サー |
| 分科会2-2 「ビジネスによる開 発で大切なこと」 | 横山 裕司氏 | 一般社団法人アフリカクエスト代表理事 (Africa Quest.com編集長、アフリカオンラ インコミュニティ”AI-HUB”主宰者)、ア イ・シー・ネット株式会社グローバルビ ジネス支援事業部 アフリカ事業グルー プリーダー、IC NET TRADING AFRICA LTD CEO (ケニア現地法人)、エイズ孤 児支援NGO・PLAS 理事 |

| | | |
|-------------------------------|----------------------------------|---|
| | 鈴木 大詩氏 | 会宝産業株式会社 海外事業部 |
| 2-3 「西サハラから考える アフリカの平和」 | 岩崎 有一氏 | ジャーナリスト、アジアプレス |
| | 稲場 雅紀氏 | NPO法人アフリカ日本協議会 国際保健 部門ディレクター、市民ネットワーク forTICAD世話人 |
| マッチングタイム ブース出展団体 | (特活) アフリカ日本協議会 | |
| | 会宝産業株式会社 | |
| | (特活) ADRAジャパン | |
| | 岩崎有一氏 | |
| | NPO法人AfriMedico | |
| | 一般社団法人アフリカクエスト | |
| | 公益社団法人日本交流国際センター/グローバルファンド日本委員会 | |
| | NPO法人AYINA | |
| | ILO駐日事務局 | |
| | KAKEHASHI AFRICA | |
| | タイガーモブ株式会社 | |
| | NPO法人HANDS | |
| (特活) CanDo | | |
| 映像 | 岩崎有一氏「アフリカ二十七景～大陸各地の風景・文化・人々の表情」 | |

TICAD7公式サイドイベント 登壇者

若者の参画とパートナーシップ—SDGsとアジェンダ2063を達成するために—

| 名前 | 所属 |
|------------------------|---|
| Khalid Boudali氏 | アフリカ連合 経済・社会・文化評議会 副議長 |
| Toily Kurbanov氏 | 国連ボランティア計画 (UNV) 事務局次長 |
| Florence Syevuo氏 | SDGsケニアフォーラム 国代表 |
| Webster Makombe氏 | Scaling Up Nutrition (SUN) グローバル・ユース・リーダー |
| Gwei Micheal Wawa氏 | ブエア大学修士、テクノロジー専攻 |
| Fitsum Lakew氏 | WACI Health, コーディネーター |
| 大久保 勝仁 | JYPS参画部統括、SDGs市民社会ネットワーク理事 |
| 山口 和美 | JYPS参画部オフィサー・TICAD7ユースサミット実行委員会統括 |
| 岡部 エミリー 直美 (モデレーター) | JYPS事務局長 |

若者の力 ~SRHRから始めるジェンダー平等~

| 名前 | 所属 |
|----------------------|----------------------------------|
| 勝部 まゆみ 氏 | ジョイセフ 事務局長 |
| 市野 紗登美氏 | 外務省国際協力局 国際保健政策室 |
| Sam Ntelamo氏 | IPPF アフリカ連合連絡事務所長 |
| Eméfa Chéríta Ankou氏 | IPPFトーゴ (ATBEF) ピア・エデュケーター |
| Mamello Makhele氏 | レソトの助産師/「MobiHope」創設者/SheDecides |
| 戸谷知 尋 氏 | ちゃぶ台返し女子アクション学生メンバー |
| 高澤 裕子氏 | IPPF JTFマネージャー |
| 山口 和美 (司会) | JYPS参画部/TICAD7ユースサミット実行委員会統括 |